

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25285169

研究課題名(和文)国民皆保険・皆年金の「形成・展開・変容」のオーラルヒストリー研究

研究課題名(英文)Oral History Research on the Policy Development of the Universal Health and Pension Insurance Systems in Japan

研究代表者

菅沼 隆 (SUGANUMA, Takashi)

立教大学・経済学部・教授

研究者番号：00226416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オーラルヒストリー研究の手法を用いて、国民皆保険・皆年金の政策展開について検討を行った。戦後の社会保障政策に関与した14名の厚生官僚と3名の研究者のオーラルヒストリー記録を作成した。インタビューを通じて、社会保障の政策決定プロセスにおいて様々な政策提案がなされる経緯および取捨選択される経緯などを検討にした。

研究成果の概要(英文)：This research investigated the policy development of the universal health and pension insurance systems in Japan by the oral history method. Our research team collected oral history interviews of the fourteen bureaucrats worked in the Health and Welfare Ministry and three social scientists. Through the interviews, this research analyzed the backgrounds of the social policy proposals and choices in the policy-making processes.

研究分野：社会政策

キーワード：社会保障 国民皆保険・皆年金

1. 研究開始当初の背景

(1) 政策研究におけるオーラルヒストリー研究は特に 1990 年代後半より多くの研究成果が生み出されてきた。またその実践としても多くの政策領域にわたるようになってきた。しかし、社会保障分野のオーラルヒストリー研究ははじまったばかりである。分担研究者の土田も参画した『日独社会保険政策の回顧と展望』や『国民皆保険オーラルヒストリー幸田正孝』等があったが、これらは座談会や一個人の生涯を対象としたライフ・オーラルヒストリーといった性格が強く、「国民皆保険・皆年金体制」の成立過程とその後の展開の全体像を明らかにするようなものではなかった。そのため本研究は、社会保障全体のオーラルヒストリーとして、初めての研究となることを目指した。

(2) 日本の社会保障の特徴は、国民皆保険・皆年金である。その基礎となった国民年金法は 1959 年に制定され、国民健康保険法も 1958 年に全面改正なされたものであり、その立案に関わっている関係者も高齢になってきた。オーラルヒストリーは記憶に基づき証言を記録するものであるため、早急に取り組む必要があった。

2. 研究の目的

オーラルヒストリー研究の手法を用いて、国民皆保険・皆年金体制の形成と展開に関与した官僚・キーパーソンに対する聞き取りを行い、政策決定プロセスで様々なビジョン・提案が提出される経緯および取捨選択される経緯を具体的に明らかにする。その記録を後世に残すとともに、この体制の形成・展開・変容の全体像を明らかにする。これにより戦後日本の社会保障の歴史を再検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本研究が採用する方法は、オーラルヒストリーである。オーラルヒストリーとは、「聞き手と語り手の共同作業によって、後者が経験した過去の出来事について語ってもらい、それを録音し記録に残すこと、又そうして保存された記録」(政策研究大学院大学 COE オーラル・政策研究プロジェクト)を意味する。

オーラルヒストリーの手法には、主にライフ・オーラルヒストリー(厚生行政に関わったキーパーソンの人生全体から聞き取りを行う手法) テーマ・オーラルヒストリー(特定の政策課題に関する複数の関係者より聞き取りを行う手法)という手法があるが、本研究では国民皆保険・皆年金体制の形成・展開・変容を明らかにするという観点から、テーマ・オーラルヒストリーを中心的に用いた。

(2) 併せて、オーラルヒストリー報告書と史資料と付き合わせた総合的検証を行う。その作業によって、その証言の確かさと新規性が明らかになる。また史資料のみならず収集した厚生官僚追悼録との照合なども実施する。

4. 研究成果

本研究班の成果としては、まず平成 25 年から平成 28 年の間に、18 冊のオーラルヒストリー報告書を公刊することができたことがある。国民皆保険・皆年金や社会福祉の展開に関する議論を中心に厚生官僚 14 名(うち 5 名は事務次官)の聞き取りを行った。加えて、社会保障研究者についても自身の研究歴と政策への関わりなどについて証言していただいた。

厚生官僚に聞き取ったテーマには、[医療保険]は国民皆保険の歩み、日本医師会の動き、1982 年老人保健法の制定、医療法改正など医療供給体制のあゆみ、1984 年健康保険法改正などがあり、また[年金保険]は国民皆年金の歩み、1973 年・1985 年年金改正などについて聞き取りを行うことができた。戦後の社会保障改革についての重要な証言を得ることができたといえる。加えて、「福祉分野」においても、児童手当の立案、戦後の生活保護の歩みや環境庁の創設などについて証言を得ることができた。今回、厚生省の政策課題が年金・医療保険の領域のみに留まらないことを、ヒアリングを通して改めて実感できた。

これらは政策立案過程についての証言であり、今回の研究によって、社会保障改革における省内の役割分担、議論の様子、立案までのスケジュール、政治家、関係団体の有力者の動きなどかなり詳細なプロセスまで明らかになったものもある。また本研究の成果の特徴としては、福祉の専門官や社会局プロパー(いわゆるノンキャリア)の方々からのご証言を頂くことができたことがある。同じ局・課に在籍する期間も長いため、制度の歴史や当時の現場の様子などについて幅広く知識をお持ちであり、また時折、法令担当の事務官と考え方などで違いもみられた。様々な証言をつき合わせることによって、政策決定を多角的な視点で捉えることが可能になるだろう。さらには聞き取りの対象者の厚生省の在籍時期も幅広く、結果として、時期区分としても戦後 50 年間の厚生行政を捉える研究となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

菅沼隆、グローバル化時代の歴史観の構築 『三つの世界』以前と次の四半世紀、季刊社会保障研究、査読無、51巻3・4号、2016、256 - 257

菅沼隆、国民健康保険誕生におけるデンマーク問題、週刊社会保障、査読無、2829号、2015、50 - 55

新田秀樹、国保の都道府県「移管」で果たして何が変わるのか？、都市問題、査読無、106巻9号、2015、59 - 66

新田秀樹、終戦直後の日本における『国民皆保険』、法学新報、査読無、121巻7・8号、2015、331 - 359

菅沼隆、連帯と健保組合：保険者形態論から考える、健康保険、査読無、69巻2号、16 - 19

土田武史、現代社会における社会保障改革の意味、週刊社会保障、査読無、68巻2788号、2014、154 - 159

土田武史、自助・共助・公助のあり方を考える、健康保険、査読無、68巻2号、2014、22 - 27

土田武史、日中韓における社会保障の類似と相違、週刊社会保障、査読無、67巻2743号、2013、32 - 33

土田武史、医療保険制度の課題と将来、週刊社会保障、査読無、67巻2739号、2013、48 - 53

〔学会発表〕(計1件)

菅沼隆、現代社会保障のとらえ方、Rengoアカデミー、2013年11月27日、メロンディアあざみ野(神奈川県・横浜市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

菅沼隆、田中聡一郎、土田武史、新田秀樹、森田慎二郎、岩永理恵、山田篤裕、中尾友紀、百瀬優、新嶋聡、科研費オーラルヒストリー報告書 古川貞二郎[元内閣官房副長官・元厚生事務次官]、2017、164

土田武史、田中聡一郎、新田秀樹、菅沼隆、岩永理恵、森田慎二郎、新嶋聡、松本由美、科研費オーラルヒストリー報告書 多田宏[元厚生事務次官]、2017、114

百瀬優、田中聡一郎、土田武史、菅沼隆、新田秀樹、山田篤裕、中尾友紀、科研費オーラルヒストリー報告書 坪野剛司[一般社団法人年金総合研究所理事長・元厚生省年金局数理課長]、2016、53

岩永理恵、田中聡一郎、菅沼隆、科研費オーラルヒストリー報告書 根本嘉昭[神奈川県立保健福祉大学名誉教授・元厚生省社会局保護課課長補佐]、2016、56

深田耕一郎、田中聡一郎、岩永理恵、菅沼隆、新田秀樹、山田篤裕、中尾友紀、中嶋洋、科研費オーラルヒストリー報告書 田中荘司[元厚生省老人福祉専門官]、2016、103

土田武史、田中聡一郎、菅沼隆、新田秀樹、森田慎二郎、浅井亜希、深田耕一郎、新嶋聡、科研費オーラルヒストリー報告書 前田信雄[元国立公衆衛生院社会保障室長]、2015、84

岩永理恵、菅沼隆、山田篤裕、田中聡一郎、科研費オーラルヒストリー報告書 西沢英雄[元厚生省社会局保護課長・監査指導課長]、2015、29

岩永理恵、菅沼隆、田中聡一郎、科研費オーラルヒストリー報告書 苅安達男[元厚生省社会局保護課]、2015、37

土田武史、菅沼隆、山田篤裕、森田慎二郎、中尾友紀、百瀬優、田中聡一郎、科研費オーラルヒストリー報告書 青柳親房[元厚生省九州厚生局長](年金制度改正(1985年)篇)、2015、62

土田武史、菅沼隆、中尾友紀、百瀬優、田中聡一郎、科研費オーラルヒストリー報告書 辻哲夫[元厚生労働事務次官](年金制度改正(1985年)篇)、2015、36

土田武史、田中聡一郎、菅沼隆、新田秀樹、森田慎二郎、中尾友紀、百瀬優、科研費オーラルヒストリー報告書 吉原健二[元厚生事務次官](老人保健法制定篇)、2015、44

土田武史、菅沼隆、中尾友紀、百瀬優、

田中聡一郎、森田慎二郎、山田篤裕、科研費オールラヒストリー報告書 吉原健二 [元厚生事務次官] (国民年金法制定篇) 2015、44

岩永理恵、菅沼隆、田中聡一郎、百瀬優、科研費オールラヒストリー報告書 田中敏雄 [元厚生省社会局保護課長・監査指導課長] 2015、50

岩永理恵、菅沼隆、山田篤裕、田中聡一郎、科研費オールラヒストリー報告書 井手精一郎 [元厚生省社会局更正課長] 2015、42

土田武史、菅沼隆、新田秀樹、田中聡一郎、山田篤裕、中尾友紀、百瀬優、科研費オールラヒストリー報告書 幸田正孝 [元厚生事務次官] 2014、156

土田武史、菅沼隆、新田秀樹、山田篤裕、中尾友紀、百瀬優、田中聡一郎、浅井亜希、深田耕一郎、新嶋聡、科研費オールラヒストリー報告書 一圓光彌 [関西大学名誉教授] 2014、54

浅井亜希、田中聡一郎、菅沼隆、新田秀樹、山田篤裕、中尾友紀、岩永理恵、深田耕一郎、新嶋聡、科研費オールラヒストリー報告書 近藤功 [元厚生省大臣官房参事官・児童手当準備室長] 2014、104

土田武史、菅沼隆、新田秀樹、山田篤裕、岩永理恵、中尾友紀、田中聡一郎、百瀬優、浅井亜希、深田耕一郎、新嶋聡、科研費オールラヒストリー報告書 山崎泰彦 [神奈川県立保健福祉大学名誉教授] 2014、26

土田 武史 (TSUCHIDA, Takeshi)
早稲田大学・商学学術院・名誉教授
研究者番号：10172024

山田 篤裕 (YAMADA, Atsuhiko)
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：10348857

田中 聡一郎 (TANAKA, Soichiro)
関東学院大学・経済学部・講師
研究者番号：40512570

深田 耕一郎 (FUKADA, Koichiro)
女子栄養大学・栄養学部・講師
研究者番号：40709474

浅井 亜希 (ASAI, Aki)
立教大学・社会情報教育研究センター・教育研究コーディネーター
研究者番号：40709573

岩永 理恵 (IWANAGA, Rie)
日本女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：60438166

新田 秀樹 (NITTA, Hideki)
中央大学・法学部・教授
研究者番号：70303576

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅沼 隆 (SUGANUMA, Takashi)
立教大学・経済学部・教授
研究者番号：00226416

(2) 研究分担者

百瀬 優 (MOMOSE, Yu)
流通経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：00386541

森田 慎二郎 (MORITA, Shinjiro)
東北文化学園大学・医療福祉学部・教授
研究者番号：00405937

中尾 友紀 (NAKAO, Yuki)
愛知県立大学・教育福祉学部・准教授
研究者番号：00410481